

## 岩手公園の愛称について

平成 18 年 8 月 23 日  
市長公室、商工観光部、  
都市整備部、教育委員会

岩手公園の愛称については、市民意見や岩手公園愛称検討懇話会の意見を踏まえた上で、市の考え方を取りまとめ、市議会と相談しながら決定し、9月15日の岩手公園開園100周年記念式典でご披露する予定としているところでございます。

今般、愛称の選定及びその使用方法等に関し、懇話会から市長に報告書が提出され、一部に慎重な意見や疑問の意見もあったものの、愛称を付けるべきとする意見が大勢を占めたこと、具体的な愛称案については、絞り込まずに市の判断に委ねることとする内容の報告を受けたところです。

このことを踏まえ、岩手公園の愛称設定についての方針及び愛称名の候補についてご説明するとともに、ご意見をいただきたいと存じます。

## 1 愛称について

### (1) 愛称の必要性

本年は、岩手公園の開園100周年であり、また日本100名城の一つに選定された記念の年ともなっており、この節目を迎えた時期は、これまでの経過や100年の歴史、市民等の思いを大切にしながら、これからの100年に向け、新たな展望について考える良い機会であると捉えています。

岩手公園(盛岡城跡)の主な沿革につきましては、別紙の参考資料のとおりであり、岩手公園の名称の由来につきましては、県に依頼するなど調査を行いました。開設当時の記録が不明であり、当時の新聞記事から県が開設した公園であることから岩手公園の名称となったものと推定されます。

岩手公園の愛称については、たびたび市議会の一般質問で愛称や名称変更等について取り上げられてきています。また、盛岡商工会議所観光文化委員会や、市議会観光対策特別委員会におきましても、岩手公園に多くの方が訪れていただけるようにするとともに、市街地にある歴史的な観光資源として岩手公園をもっと活用するため、愛称を検討すべきとする提案をいただいているところです。

岩手公園の愛称設定に関し意見を頂くために設置した岩手公園愛称検討懇話会においては、愛称の必要性について、公園の歴史性を明確に伝え、盛岡を対外的にアピールするとともに、これからの公園を充実整備していくための契機とするために「愛称は必要である。」ということが委員の意見の大勢を占めたところです。主な意見としては、「公園の歴史的経緯の顕彰のためにも愛称は付けるべき。これからの100年を見据えてまちづくりの中心に公園をどう生かしていくかを考えていく必要がある。」、「子供から大人まで分かりやすい愛称を付けることは賛成。」、「市街

地の中心部に立派で歴史的な公園があり、都市間競争のなか、城郭復元などハードやソフトの活用策を考え観光に生かすべき。」などです。一部委員からは、「愛称は必要ではあるが、盛岡ブランドの取組みやまちづくり懇談会の場でも議論するなど、もう少し時間をかけて理解を得るべき。」「愛称をつけることの費用対効果は低く現在バラバラとなっている名称表記を「盛岡城跡／岩手公園」などのように統一することで問題は解決する。」という意見もあったところです。

また、全国の観光マップ等の表記に関し、岩手公園のように城や城跡が国指定史跡でかつ公園利用がなされており、城や城跡の名称と公園名称に関連ない場合の表記の仕方を調べてみると、城や城跡の名称と公園の名称が併記されている事例が大部分であり、城や城跡に整備された公園であることが分かる状況にもなっています。

市はこのような提案等を踏まえるとともに、「魅力間競争」ともいえる都市間競争が進む中で、地域資源を生かしながら新しい魅力を生み出し、「元気なまち盛岡」のまちづくりの一環として、歴史的にも観光面でも市街地の中心にあり、最大の資源である岩手公園に県内のみならず県外の多くの方々に訪れていただけるように、城跡の風格のある石垣など公園の実体を率直に表す分かりやすい愛称を設定するものでございます。愛称による「盛岡」の発信や市街地の賑わいを生み出す魅力のある公園として、次の世代に引き継ぐまちづくりを進めていくものとします。

## (2) 市民意見について

このような市の考え方に対する市民等の意見については、7月に愛称検討懇話会が実施した市のホームページによる市民意見募集の結果においては、2週間の短期間にもかかわらず、34件の意見提出があり、賛成の立場が18件、反対の立場が11件、その他が5件という結果でした。また、新聞や投書等により市民等から寄せられた意見を調べると、57件の意見が寄せられ、賛成の立場が32件、反対の立場が21件、その他が4件という状況となっています。

市民等から寄せられた主な意見としては、「岩手公園の持つ歴史的な価値を尊重すべきであり、愛称は必要である」、「盛岡城があったことを次の世代に語り継ぐ手がかりとして愛称を付けてほしい」、「石垣のすばらしさを全国にアピールできる愛称を付けてほしい」、「盛岡を全国にアピールしてほしい」等があげられます。一方、反対意見としては、「100年間、岩手公園の名称で広く県民に親しまれてきた」、「岩手公園で思い出がよみがえる。名称変更は残念」、「宮沢賢治や石川啄木の作品に使われ親しまれている岩手公園の名を大切にしてほしい」などがあげられ、根強い愛着もあることが分かります。

市民等の意見の方向として、この問題に対しての市民の関心は高く、上記の市民意見募集結果等からは、概ね半数以上は市の考え方に理解を示しているものと考えています。

### (3) 愛称設定の方針について

次の方針により愛称を設定するものとします。

- ① 「岩手公園」という名称は、法的な手続きを経て決定されていますが、法律上は、開設された公園の名称変更は想定されていないことから、正式名称の変更ではなく、公園の実体を表すのに相応しい「愛称」の設定とします。
- ② 愛称の設定とともに、これからの公園のあり方、活用のしかたについて検討し、中心市街地の賑わいのあるまちづくりにつながるように、公園を中心として歴史的なまち並みや中津川の自然環境、県立図書館跡地を利用して整備が予定されている歴史文化施設などを連携させた観光拠点づくりの促進など、特色のある「まちなか観光」についての重要な役割を担う愛称に相応しい公園となるように取り組むものとします。
- ③ 愛称の対象範囲としては、現在開設されている公園の区域を対象とします。  
明治 39 年に県が開園した岩手公園は、盛岡城跡の範囲で計画されていますが、昭和 31 年に総合公園として都市計画決定された後は、史跡の東側に隣接する地区も含めて整備され、城跡を中心に風格のある石垣とともに、様々な花木の植栽、レクリエーションや憩いの場となる芝生広場などが多くの市民に利用され、親しまれているので、愛称は現在の岩手公園を呼ぶもう一つの呼称となるものです。
- ④ 正式名称と愛称の考え方や公園の名称に係る法的な位置付け、指定区域の範囲、などについては、HP や広報などを活用し市民への周知を図るものとします。

### (4) 愛称名の候補について

懇話会において、愛称を付ける際の留意点として、「公園の中身が分かること」、「よそから来たひとにも分かること」、「呼びやすいこと」、「略称でも言えること」などの観点から「盛岡」や「盛岡城」を前面に出すことが望ましいという点において、多くの委員の意見は一致しており、市としても尊重することとします。

具体的な愛称名については、懇話会委員や市民意見等により、様々な立場で提案されていますし、また、「岩手公園」の名称に対しても配慮が必要であると考えられますので、そのような観点を踏まえて、8月21日開催の政策形成推進会議において、次の4つを愛称名の候補として選定したところであり、この中から全員協議会でのご意見も参考にしながら決定してまいりたいと考えております。

<愛称名の検討について>

『盛岡城公園』もりおかじょうこうえん

『盛岡城跡公園』もりおかじょうあところえん

『盛岡お城跡公園』もりおかおしろあところえん

『盛岡城跡・岩手公園』もりおかじょうあところえん

## 2 今後の取り組みについて

### (1) 愛称の周知

決定した愛称については、市民及び来訪者へ周知と愛称の速やかな浸透・普及を図り、併せて国指定史跡や日本 100 名城の一つであることなどもアピールしていくものとしします。

- ① 道路標識、案内サイン、パンフレット等、愛称の表記方法の統一と公表
- ② 国・県等の公的機関、旅行代理店、出版社等の関係機関等への働きかけ
- ③ 公園及び周辺に設置済みの案内サイン等のできるだけ速やかな改修

### (2) まちづくりビジョンの策定

懇話会において、次の 100 年に向けて市街地の賑わいを生み出すための岩手公園の利活用や、愛称にふさわしい中身を持つ公園となるよう検討する必要があるとの指摘があったことを踏まえ、今後、市民や関係機関を含めた検討組織を設置し、岩手公園及び関連するまちづくり計画等について総合的に推進していくものとしします。

- ① 公園としての整備計画……より魅力ある公園とするための施設整備
  - ・未開設区域の整備、歴史文化施設への対応、老朽化施設リニューアルの促進など
- ② 史跡としての管理、整備計画……史跡としての価値を高めるための整備
  - ・盛岡城跡史跡保存管理計画の策定など
- ③ 周辺のまちづくり計画……公園を中心とした魅力あるまちづくりの推進
  - ・都市計画マスタープラン、中心市街地活性化基本計画、地域再生計画、菜園地区(公園通り)整備の推進、景観計画の策定など
- ④ 観光等活用計画……魅力を高めて盛岡を訪れる人にアピール
  - ・盛岡ブランド推進計画、歴史文化施設整備、周辺駐車場整備の推進など

## <参考資料>

### 1. 岩手公園の歴史と現状

#### (1) 公園の沿革

年月日	ことがら
M39(1906)年 9月 15日	岩手公園として開園(岩手県)
S9(1934)年 12月 1日	管理が岩手県より盛岡市に移管。敷地は南部家より買収。
S12(1937)年 4月 17日	盛岡城跡として史跡指定(国)
S31(1956)年 5月 14日	岩手公園として都市計画決定(岩手県)
S31(1956)年 10月 15日	岩手公園として開設告示(盛岡市)
S59(1984)年	盛岡城跡保存整備事業として石垣解体修理と発掘調査に着手
H 1(1989)年	「日本の都市公園 100選」に選定((社)日本公園緑地協会)
H18(2006)年 2月 13日	「日本 100名城」に選定((財)日本城郭協会)

#### (2) 最近までの岩手公園名称に関する内外の意見(主なもの)

年月日	ことがら
H13(2001)年 6月議会	「盛岡市民公園」といった愛称をつけ盛岡をアピールしてはどうか
H14(2002)年 9月 4日	盛岡商工会議所観光文化委員会(「盛岡城公園」などはどうか)
H15(2003)年 3月議会	「盛岡城址公園」に名称変更されたい
H15(2003)年 9月議会	「盛岡城址公園」に名称変更されたい
H15(2003)年 11月 28日	岩手日報「日報論壇」(「盛岡城址公園」に改称を)
H16(2004)年 9月議会	旧町名のマップに「盛岡城跡公園」と入れてはどうか
H17(2005)年 10月	杜陵地区まちづくり懇談会〔要望事項〕(「盛岡城跡公園」に名称変更の検討を)
H17(2005)年 10月 21日	市議会観光対策特別委員会(「盛岡城跡公園」など「盛岡」を付けた名前にしてはどうか)
H18(2006)年 3月議会	100周年を機に名称変更すべき
H18(2006)年 4月	「市議会だより」を読んだ市民から同感の意見
H18(2006)年 5月 12日	定例記者会見(前日の「岩手公園開園 100周年記念事業実行委員会」総会における市長挨拶の記事掲載を受けて、市の考え方等の質問)
H18(2006)年 5月 31日	市議会全員協議会(市の考え方、変更手続き、議会の関わり方等について質疑)
H18(2006)年 6月議会	名称変更は唐突、市民意見を十分反映すべき
H18(2006)年 6月	市政ラジオ番組へのEメール(賛成:10, 反対:6)
H18(2006)年 7月 15日	岩手日報「日報論壇」(「盛岡しろあと公園」で通用)
H18(2006)年 7月 16日	岩手日報「美術屋の道具箱」(新名称、好きに呼ぼう)
H18(2006)年 7月 14日～ 28日	岩手公園愛称検討懇話会による意見の募集 計 34件(愛称に賛成:18, 反対:11, その他:5)
H18(2006)年 7月 31日	読売新聞岩手版「いわて寸言」(100周年名称を考える契機に)
H18(2006)年 8月 3日	岩手日報論説(「盛岡の町なか観光」詩と水の城下町生かせ) ・開設名称を改称し愛称と同一にしないと市民に混乱が生じる。 ・名称変更しても史跡の価値を高めるための整備ビジョンが必要。

## 2 岩手公園愛称検討懇話会における検討

### (1) 委員の構成

座長：望月善治委員 副座長：寺井良夫委員

委員氏名	役職名等	備考(選出団体等)
坂本 広行	桜山神社宮司	南部藩志会
嶋 千秋	玉山観光協会長	観光団体(玉山区)
関 富美子	盛岡市町内会連合会	市民代表
寺井 良夫	(株) 邑計画事務所代表取締役	まちづくり団体
林 晶子	盛岡商工会議所女性会会長	商工団体
藤原 誠市	(財) 盛岡観光コンベンション協会副理事長	観光団体
望月 善次	宮沢賢治センター代表(岩手大学内)	学識経験者
山添 勝寛	(株) 岩手日報社取締役総務局長	メディア
吉田 義昭	盛岡市文化財保護審議会副会長	学識経験者

### (2) 開催経過

#### ○平成18年6月26日(月)第1回懇話会

- ・懇話会の役割及び進め方について確認後、公園の愛称についての現時点の考え方について意見交換。

#### ○平成18年7月14日(金)第2回懇話会

- ・論点整理及び愛称にかかる意見募集の実施について確認。
- ・現状における愛称の必要性及び愛称を付ける場合の留意点について意見交換。

#### ○平成18年8月4日(金)第3回懇話会開催

- ・前回審議の内容、懇談の範囲について確認
- ・愛称にかかる意見募集の結果、愛称の必要性、愛称を用いる際の留意点、具体的な名称、公園のあり方や活用について意見交換
- ・意見集約の仕方について

#### ○平成18年8月9日(水)望月座長、寺井副座長が報告書を市長に提出

### (3) 懇話会意見(報告書の概要)

#### 1) 真摯な対応

「岩手公園愛称」問題は、盛岡市民、岩手県民を初めとする多くの方々から御意見が寄せられた。極めて関心が高かったと言えるであろう。結論を出すに当たってはこうした関心に相応しい真摯な対応を期待する。

#### 2) 周知の必要

関心の高さにかかわらず、基本的な点についての認識不足もまた明らかになった。以下については、周知徹底する必要がある。

##### 2) - 1 「正式名称」と「愛称」との関連。

県民・市民等の反応を見ても、両者の相違についての混乱も少なくなかった。但し、こうした責任の一端は、今回の協議における「愛称」の使い方の無理にも

あろう。今回の問題は、実質的には、「愛称」という範囲より、「正式名称」の問題に近いものであった点も、避けられぬ論点であろう。

## 2) - 2 「公園」の範囲

明治39年時の「岩手公園」と、昭和31年の「総合公園」の範囲の関係も押さえておくべき論点の一つであろう。(今回の懇話会の協議は、後者に沿って行われた。)

## 3) 愛称問題の如何にかかわらずに求められる点

愛称問題の結果如何にかかわらず、以下の点の展望・解決こそが重要である点においては、委員の意見は一致した。

### 3) - 1 公園を中心とした町づくり

端的に言ってしまえば、この実現のためにこそ、愛称問題も意味をもつのだとさえ言っても良いほどである。

### 3) - 2 城郭復元問題への態度の鮮明化

この展望も、愛称問題に大きな影響をもつことになろう。盛岡市からの説明もあったと聞いているが、常に鮮明にしておくことが、混乱を少なくする上で有効であろう。

### 3) - 3 その他の留意点

岩手公園の景観(特に岩手山の眺望の確保)、駐車場対策等が指摘された。

## 4) 中身の重要性 ～ 単なる愛称検討とさせぬために ～

既に挙げて来た点とも重複する点もあるが、「単なる愛称のための検討」となっていない点は、委員一同が特に強調したい点である。

## 5) 愛称の必要性

愛称の必要性については、公園の歴史性を明確に伝え、盛岡を対外的にアピールするとともに、これからの公園を充実整備していくための契機とするために「必要である」が多くの委員の意見であった。しかし、それと並んで、「愛称は必要ではあるが、現時点では時期尚早で、もう少し時間をかけて論議すべきである。」「愛称をつけることの費用対効果は低く現在バラバラとなっている名称表記の統一で問題は解決する。」という意見があったことも付け加えておきたい。

## 6) 具体的名称

「盛岡」や「盛岡城」を前面に出すことが望ましいという点においては、多くの委員の意見は一致した。(やわらかく「しろあと」・「お城あと」の意見もあった。)しかし、具体的名称については、特に現状においては、基本的論点をきちんと踏まえてこそ、具体的名称も意味をもつという点から、具体的名称の統一を図ることは敢えて行わなかった。なお、「跡、址、阨、趾」の漢字の問題も提出されたが、これ等は、「亦(つづく)」、「止(もと)」に由来する漢字で、意味的には、ほとんど相違がないことを付け加えておきたい。